

## つながる地域づくり(つなまち)通信

## 令和2年度第1回地域のささえあいの仕組みづくり協議会を開催

委員は、民生委員・児童委員や高齢者クラブ、商店会、金融機関、区民ひろば、銭湯組合、福祉専門学校、介護事業者などからなる11名です。

高齢者等の生活支援体制整備に向けて意見交換し、今年度取り組みたいこと、としまベンチプロジェクトをどのようにすすめていくかなどについて話し合いました。

## 今年度のささえあい協議会で取り組みたいこと

・集まることやイベントをするのが難しく、高齢者のフレイル（虚弱）につながっている。コロナ渦でどう活動するかが重要。

・これからは、実際に集まるサロン等の活動と、会わなくてもつながれるような活動の両方をすすめることが大切。例えばLINE（ライン）で安否確認グループをつくる、スマホの勉強会やインターネットが使える環境を整備する等に取り組んでいく必要がある。

・一人暮らしで交流がない高齢者でもつながりがもてる大人食堂（食）は重要。大人だけでなく子どもと一緒に交流すればよい。ボランティア主体のみでなく、区民ひろば・関係機関等が中心になる取り組みができないか。

・若い層が活躍する団体や民間団体等から逆にテーマをもらい、新しい展開につながれるとよい。

→今後若い層が活躍する団体や民間団体等との意見交換することなどを検討します。  
会わなくてもつながれるような活動（スマホの活用等）をすすめます

## グループで話し合い



## としまベンチプロジェクトについて


活発な意見交換



- ・高齢者等が自らの足で歩き、外出する環境をつくり、コミュニケーションが広がることを目的にしている。今後の展開として、誰もが使える「福祉のベンチ」であることを発信し、豊島のまちづくり運動として、高田地域のみでなく区内の他の地域にも広げていきたい。
- ・まち歩き（フィールドワーク）は地域の在り方・住民主体のささえああいがどうあるべきかを考える契機になる取り組みだった。防災にも役立つ。

・他区からベンチプロジェクトを見学したいという話があった。プロジェクトのプロセスやノウハウをまとめ、他の区や（社会貢献に関心のある）企業にも配布、情報発信できれば新しい展開につながるのではないか。

- 高田地区に設置したベンチのPR
  - ・新たなベンチの設置
  - ・これまでの経過のまとめ を現在すすめています



**不要な椅子  
やベンチを  
募集します！**  
詳しくは下記まで  
ご連絡ください

**としまベンチプロジェクトとは？**

住宅街や道路沿いで、民家の植え込みの端やポールなどに座って休んでいる方を見かけることがあります。不安定な場所に座って、後ろに倒れこんでケガをした高齢者を家に送り届けたという話もよく聞きます。

歩くのがつらく外出を控え引きこもりがちになる高齢者、ちょっと休めると助かる親子連れなどが、ベンチがあると安心して外出できます。

また、ベンチを置くことで、ちょっとした会話が生まれます。

としまベンチプロジェクトでは、地域住民・関係機関・企業等が協力してベンチを設置することで、互いにきずなを深め、住みやすいまちづくりをすすめます。



上記の他に、「銭湯への移動手段の課題」や、「区民ひろばで総合的な相談ができる」とよい」「認知症サポーターなどがちょっとしたお手伝い（支援）がSNSを使って簡単にできる仕組みができればよい」等の様々な意見交換をすることができました

**発行 豊島区生活支援体制整備事業**  
**第1層生活支援コーディネーター 松里佳奈子**

【問い合わせ先】  
 豊島区民社会福祉協議会 地域相談支援課  
 〒170-0013 豊島区東池袋1-39-2 豊島区役所東池袋分庁舎3階  
 電話 03-3981-4392 メール csw\_seikatsu@a.toshima.ne.jp

